

グループワークで題材の理解を深めよう — TBLT理論のすすめ

山本 崇雄

(東京都立両国高等学校附属中学校)

1. TBLT とは

TBLT (Task Based Language Teaching) は CLT (Communicative Language Teaching) の理念に基づいた教授法の1つであるが、最大の特徴は、学習者に達成させるべきタスク(課題)を与え、その課題達成のための道具として英語を使わせる点にある。

Rod Ellis 氏によれば、タスクとは次のように定義される。

1. A task involves a primary focus on meaning.
2. A task has some kind of 'gap'.
3. The participants choose the linguistic resources needed to complete the task.
4. A task has a clearly defined outcome.

この中で、focus on meaning (言語材料にとらわれず、意図する事柄を伝えること) に主な焦点が置かれている点が最大の特徴である。例えば、「(教科書の) 絵を使って、内容を英語で話す」というタスクでは、必ずしもそのレッスンで使われる文法項目を使わなくてもよいのである。

2. form (言語材料) の指導

しかしながら、文法シラバスがしっかりしている日本の英語教科書では form (言語材料) は無視できない。form がわからないために、タスクが達成できないことも考えられる。その場合、タスクを達成させるために必要な文法項目を予め導入するとよい。例えば“want to ~”が新出文型であれば、教科書の導入の前に、「1週間の旅行の計画をたてよう」というタスクを行う。その際、必要な表現とし

て“want to ~”を導入すれば、自然に from にも注目させることができる。

3 GET の題材を TBLT で深める

ここでは、24NC Book 2 Lesson 5 GET Part1 を例に、TBLT を意識したグループワークの指導を紹介する。

[タスク：p.54の絵を使って内容を英語で説明する]
(活動形態：6~7名のグループワーク)



上の絵をグループに1つずつ渡し、内容についての Guess Work を行う。グループワークをさせるにあたって、アクティブな活動ができるように、必ず最初にルールを確認する。グループワークで私が大切にしていることは、① No Japanese, ② Everyone talks の2点である。これが守られないときは、すぐにグループから個人活動に切り替えるなど、最初の段階でのしつけが重要だ。さらに次のようなステップを踏んでグループワークを行う。

Step 1 Ice Breaking 登場人物について今までに知っていることを話そう。

Step 2 Buzz Discussion 絵から自由に話を想像しよう。

Step 3 Talk and Ask 内容に関する自分のこ



For Active Group Work

1-class()no.()name()

◎Be Active! --- No Japanese. / Everyone talks.

Step 1 Ice Breaking 登場人物について今までに知っていることを話そう。

Who is this boy/girl/man/woman ...? / What sport does he/she like? // What does he/she do? / Where is he/she from?
 ---He/She ...His/Her name is ... ---He/She likes ... ---He/She is a teacher. ---He/She is from ...

/ Where does he/she live? / How many CDs does he have? / When ...? / Whose ...? / Which ...? / Why ...?
 ---He/She lives ... ---He has ...

Step 2 Buzz Discussion 絵から自由に話を想像しよう。

I think Ken/Kumi/he/she... I guess Ken/Kumi/he/she...

発言を促す What do you think, Mr. /Ms. ...?

}

○同意 I think so, too. / I agree with you/Mr. .../Ms. ...
 ×不同意 I don't think so. / I don't agree with you/Mr. .../Ms. ...
 ---I think/guess ...



Step 3 Talking about yourself and asking questions 内容に関する自分のことを言おう。質問をしよう。

I like / have / play / study / think ... I'm ... (I think) it's interesting/boring/exciting/scary/easy/difficult/important ...
 Do you like / have / play / study / think ...? Are you ...? (Do you think) it's interesting/boring/exciting/scary/easy/difficult/important ...?

Step 4 Oral Presentation 教室に貼られたヒントを読んで、班員に正確に伝えよう。最後に一人ずつ絵の内容を英語で表現します。

班で一人がヒントを読む → 班員に伝える → 班員はその英語を何度も言う → 別の人がヒントを読む → 繰り返し ...

と言おう。質問をしよう。

Step 1~3 までは、絵の内容について、自由に話すことができる。知っていることから、自然に話させるステップが重要である。最初の敷居を低くすることが、スムーズに話し始めることにつながる。

Step 4 Oral Presentation 教室に貼られた英語を読んで正しいストーリーを理解しよう。

Step 4 では、実際の内容の読み取りに入る。教科書ではダイアログで書かれているので、これをモノログに書き換え、教室の壁に貼る。各グループから1人ずつ、壁に貼られた情報を読み、グループで内容をシェアする。Read & Talk といったイメージだ。

〈壁に貼付ける情報の例〉

[Lesson 5 part 1]

Ken and Emma are talking about the day-at-work program. It's "shokugyo-taiken" in Japanese. The day-at-work program is coming next week. Emma wants to go to a farm. Ken wants to work in a department store. They will have a great time.

壁に貼ってある情報を何度も読みながらグループで共有していき、何度も練習することによって、グループのメンバーが自力で Reproduction ができることを目指す。

教科書の内容を絵を使って英語で話すことが、題材を理解することにつながる。さらに、内容について自分の考えや感想を話したり、聞き手に質問したりすることで題材の理解は深まる。GET は比較的平易な英語で書かれているので、アウトプットを充実させることにより、題材の理解が深まり READ の内容と量のある英文につなげることができる。

4. グループワークでアクティブに

グループワークでは、ある意見に対して、全員が I think so, too. / I don't think so, I think ...What do you think? といった反応を意識し、誰でも公平に発言できる雰囲気を作りたい。Reading Task のように一問一答になる場合でも、Why? を考え、論拠を探すところまで考えさせると学びが深くなる。継続的に指導していけば、中学英語でも TBLT に基づいたアクティブなグループワークで、学び合いながら題材を深めていくことができる。